



令和5年度 第4号  
常磐野小学校 校長室だより  
令和5年7月13日発行 文責 清川 秀一

学校教育目標

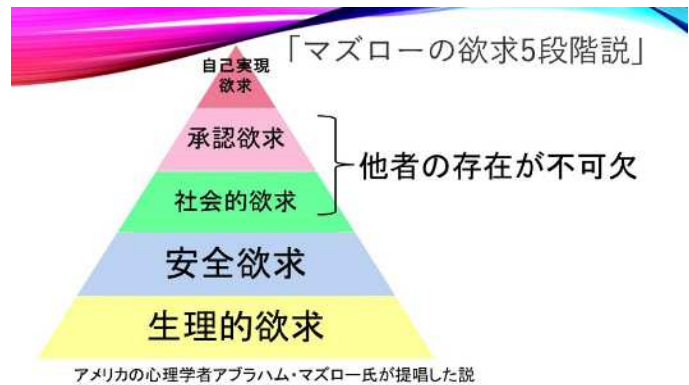
つながり、深まり、未来をつくる子



暑い中、個人懇談会に足を運んでいただきありがとうございます。1学期が間もなく終了し、夏休みが始まります。子どもたちも夏休みを待ち遠しく思っていることでしょう。初めての学校生活をたいへん頑張ってきた1年生は特にそうかもしれませんね。一方、教職員にとっては自己研鑽に励む時期で、各種研修に参加していきます。

さて、本校の児童につけたい力の一つに「コミュニケーション能力」を挙げています。先日は特にコミュニケーションを取り上げて、研修を行いました。子どもたちの中には、お話好きな児童もいれば、抵抗のある児童もいます。それでも、コミュニケーションは必要なのか？ということからスタートしました。

アメリカの心理学者アブラハム・マズロー氏によると人間の欲求には5段階あり、より高次の欲求は他者とのコミュニケーションによって得られます。つまり、コミュニケーションは人間の本能的欲求であるということです。でも苦手とする人がいるということは、どこかで阻害される要因があったということになります。おそらく、無関心・否定・遮り・誤解などのマイナスの経験をどこかでした可能性が考えられるので、学校ではその逆を考え、先生も子どもの話を真剣に正面から聞くことや、話を途中で遮らないことなどを大切にしたいと思います。それから、コミュニケーションでは「話す」とことと「聞くこと」の両方が大切になります。1対1で話す場合コミュニケーション能力が高い人は、話す時間の割合が自分と相手で5:5か4:6になるよう意識しているという研究があり、これを「ピンポンルール」と言うそうです。卓球になぞらえているのでしょうか。



良いコミュニケーションの基準は、

**相手の反応**

ピーター・ドラッカー

「われわれは期待しているものだけを知覚する。期待しているものを見、期待しているものを聞く。」

「重要なのは、期待していないものは認識すらされないということにある。見えなければ聞こえもしない。無視される。あるいは間違って理解される。」

授業の中で先生が話をする割合を下げ、できるだけ子どもたちの声が多数集められる授業を目指していきたいと考えています。そのために、学校統一のハンドサインを作り、誰かの意見に対してちゃんと合図で反応し、発言したことに意味があったと感じてもらう工夫を取り入れています。ご家庭においても、お子たちとのコミュニケーションにおいて、参考にさせていただければと思います。